

## 地域包括ケア病棟のご案内

### 医療法人社団永生会 永生病院

当院では平成 28 年 9 月 1 日より地域包括ケア病棟（50 床）を開設いたします。

地域包括ケア病棟では、患者様の在宅へのスムーズな復帰や住み慣れた地域での暮らしを支援することを目的として、「在宅復帰支援計画」に基づき、医師や看護師、病棟専従のリハビリスタッフ、病棟専任のソーシャルワーカー等が在宅復帰に向けて治療・支援を行ってまいります。

### 地域包括ケア病棟の役割

増え続ける社会保障費の財政負担を軽減し、人口減少社会を克服するため、とことん型の治す「従来型医療」から、高齢者に多い疾病を治し・支えるまあまあ型の「生活支援型医療」への移行が必要となっています。

このような状況で最も使い勝手が良い病棟として登場したのが「地域包括ケア病棟」です。

### 地域包括ケア病棟の機能とは

主として3つの機能が挙げられます。①高度急性期病院などからの患者様を受け入れる post-acute の機能、②在宅や施設などで療養中の高齢者が具合が悪くなった時に受け入れる sub-acute の機能、③在宅・生活復帰支援の機能 があります。

### 地域包括ケア病棟の入院対象患者様は

1. post-acute の機能としては、軽度の脳卒中や急性心筋梗塞、重症肺炎、癌や整形外科疾患などの術後で急性期を脱した方などの、十分な生活回復リハビリと適度な機能回復リハビリを行い、60 日以内に自宅または居住系施設に必ず帰る方が対象となります。

当院では 3AB の内科病棟にて転院をお受けし、2~3 週間程度のスクリーニング期間を経て、地域包括ケア病棟にご案内することとなりますが、主治医は変わらずに地域包括ケア病棟でも主治医となります。また治療の継続が必要な場合でも、当院の地域包括ケア病棟では内科病棟の治療を継続したり、疾患の急性増悪や合併症の発症にも原則として地域包括ケア病棟のなかで対応することが可能です。

2. sub-acute の機能としては、年齢や疾患は不問で、自宅や居住系施設・介護施設等で療養生活を送られている方の、肺炎・骨折等の軽~中等度急性疾患の緊急入院や、医療必要度の高い方のレスパイト、終末期の癌緩和ケア患者等を受け入れます。

3. 在宅・生活復帰支援の機能としては、入院患者様の治療と同時に主治医、看護師、介護福祉士、OT・PT・ST 等のリハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、MSW などの多職種連携にて支援を行います。退院支援や調整は主治医、看護師や MSW などが入院直後か

ら実施し、地域ケアマネージャーと連携します。自宅に戻る際にどのような在宅サービスが必要か、訪問診療・看護・リハビリを利用するのか、薬剤管理指導や栄養指導を必要とするのかなどをフォローし、「主として在宅・時々レスパイト入院」などの患者様の利用が可能です。

## どうすれば利用できるの？

地域包括ケア病棟のご利用を希望される場合は、当院のコールセンター（TEL:0120-001-083）にご相談ください。「かかりつけ医（主治医）からの診療情報提供書」及び在宅の方は「地域ケアマネージャーからの情報提供書」をご提出いただきます。

内科病棟を経由もしくは地域包括ケア病棟に直接入院となります。

## 入院費はどうなるの？

○日常生活サービス料：ご希望の方には衣類のリース（洗濯を含む）を準備しております。

利用料：1日あたり 2000円（税抜）、生活保護の方については500円

○室料（差額ベッド代）

2人部屋利用：1日あたり 5000円（税抜）

3人部屋利用；1日あたり 3500円（税抜）

○医療費

各種健康保険自己負担分の医療費をお支払いいただきます。（詳細は別紙参照）

入院期間が通算で180日を超える場合は負担額が増える場合があります。（特定療養費）

○食事代

入院時食事療養費として、1食360円をご負担いただきます。

○オムツ代

オムツが必要な場合は、ご使用分を215円（組）/回（税抜）としてご負担いただきます。当院指定のリハビリパンツ（M22、L20、LL18枚 2500円）（税抜）、当院指定の尿取パット（44枚 1920円）（税抜）は売店で購入できます。

○保証金：退院の際に預かり証をご提示いただくことでご精算となります。

2人部屋：300,000円

3人部屋：250,000円

☆ご不明な点がございましたらサービス支援課医事担当までお問合せ下さい。

## 地域包括ケア病棟と回復期リハビリ病棟の違いは

○回復期リハビリ病棟は基本的に sub-acute の機能は持っていません。post-acute の機能としては最長180日間入院できますが、地域包括ケア病棟は60日です。

○中等度から重度の脳卒中、脳脊髄損傷などの機能障害が高度で、発症前のADLが著しく低下した方は、機能回復リハビリにかなりの時間を費やすので回復期リハビリ病棟が向い

ています。

○軽度の脳卒中や急性心筋梗塞、重症肺炎、癌や整形外科疾患などの術後で急性期を脱した方などの、十分な生活回復リハビリと適度な機能回復リハビリを行う方は地域包括ケア病棟が適しています。

○回復期リハビリ病棟は「疾患で選ぶ専門店」、地域包括ケア病棟は「懐の深い駆け込み寺」としての特徴があります。